

そわにえ Soigner

第11号

「Soigner (ソワニエ)」とは、「世話をする・手当てする」という意味のフランス語です。

2007年10月15日発行



発行/東京訪問看護ステーション協議会 (責任者 森山弘子)
〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
社団法人東京都看護協会内
TEL : 03-5229-1534・1520 / FAX : 03-5229-1524

INDEX /

- さんぼみち……………① 委員会報告……………⑤
- 研修会報告……………② インタビュー……………⑥
- イベント報告……………③ STこぼれ話……………⑦
- ステーション紹介……………④ 編集後記……………⑧



【白川郷】STコスモス 伊波巴子さん撮影

介護保険制度が始まって早7年が経過いたしました。「措置から契約へ」「国民全体で支えあう」をテーマにスタートした介護保険も昨年大きな改正があり、「介護予防」「自立支援」を強調して今日に至っております。

私は平成12年の制度開始より今日まで介護保険制度の中で仕事をしてまいりました。現在は地域包括支援センターで働いております。ご承知のとおり地域包括支援センターは要支援の利用者、特定高齢者の介護予防プランの作成機関として昨年の法改正において誕生した組織です。この1年半、地域包括支援センターの仕事を通じて介護保険制度を顧みます時に切に感じますことは、介護保険制度の理念と利用者が求める介護福祉制度のあり方において大きなギャップが存在していることです。地域のケアマネジャーがケアマネジメントにおいて苦勞している現実も、このギャップゆえのことであると痛切に感じるのです。

ケアマネジメントによる援助が目的とするところは端的に言ってしまうと、「ケアプラン第2表に記載された、生活の解決すべき課題(ニーズ)を実現すること」です。目標設定を行って目標(ゴール)にいかにか到達するか?がケアマネジメントの課題であります。しかしながら利用者にとっての現実とは、「サービスを



を利用すること」が目標になってしまっていることです。医療の現場に言い換えますと、「病気を治すことが目的なのではなく、薬を飲むことが目的」になってしまっていることと同義です。こうした現状からケアマネジャーが「思うようにケアマネジメントできない」と嘆きの声をあげるのではないのでしょうか。

法改正により「介護予防・自立支援」の理念が大きく謳われる今日です。国の考えるこの理念が妥当なのか?否か?賛否はあるでしょう。根本的な議論として今後も考えていかなければならないことです。しかし、制度のよし悪しは別として、制度を利用する利用者も正しく介護保険制度の意義、理念を学ばなければならぬと思います。制度である以上一定のルールがあります。サービスを受ける側も提供する側も互いに同じ土俵の上で、共通理解を持っていなければ、本来的に介護保険制度の目指す理想へは近づけないのではないか?と思うのです。

在宅介護に関わる私たち一人一人が正しい理解をもって、利用者に最大限の専門性を提供し、そして利用者も最大限の専門性を享受する。その関係性においてこそ、私たち対人援助職者の存在意義があるのではないのでしょうか。



理事 木村 靖

特定非営利活動法人
東京都介護支援専門員研究協議会

専門職として

「新しい認知症ケア」の研修会

study

平成19年9月5日に東京都看護協会会館2階サークル室において、第1回の研修会が行われました。テーマは「新しい認知症ケア」。募集定員150人に対し238名（ステーション89名、病院149名）の応募があり、看護職の関心の高さが伺えました。当日は台風前日で天候も悪かったのですが、最終的に146名の方が参加されました。
（文責：研修委員会 委員長 徳江幸代）

＜最近の認知症ケアを取り巻く状況について＞ 90分

講師は、永田久美子先生（認知症介護研究・研修センター主任研究主幹）。

永田先生は、当日札幌にも呼ばれているという忙しい中、認知症の方への深い愛情と熱い想いを感じさせる内容で、時間ギリギリまで講演してくださいました。



永田先生

①認知症ケアの動向について、②これからの認知症ケアと看護、③センター方式の理解と活かし方のポイント、という方向で講演され、「認知症の人は傍に来る人が環境の一部、ナーズの表情や体の硬さが認知症の方の緊張を呼び」緊張は周辺症状を悪化させることにも繋がる。おおらかに、ゆっくりとスローライフの精神で関わることの重要性を強調されました。

また、表面的な問題に目を奪われることなく、利用者本位を実践すべく、1. その人らしいありかた、2. その人にとっての安心・快、3. 暮らしの中での心身の力の発揮、4. その人にとっての安全・健やかさ、5. なじみの暮らしの継続（環境・関係・生活）の共通の5つの視点で本人と向き合い、認知症の人が最後までその人らしく生きるためのケアの必要性を説かれました。そして、関わる全てのチームや地域の関係部門で話し合うことの重要性も話されました。

さらに、そのためのツールとして、センター方式（認知症の人のためのケアマネジメントセンター方式：厚生労働省 老人保健健康増進事業）のシートと実際の記入例を紹介されました。しかし、残念ながら内容が多岐にわたりセンター方式を十分理解するには講演時間が足りないという状況でした。先生は、参考図書やいつどこネット [http://www.itsu-doko.net/] での用紙の無料ダウンロードなどを教えてくださいました。



講義に聴き入る参加者

＜タクティールケアについて＞ 実演付き90分

講師は、木本明恵先生（日本スウェーデン福祉研究所シルビアホーム認定インストラクター）とアンソフィー・オドウィヤー先生（スウェーデンシルビアホーム：シルビアシスター）同時通訳付き。



アンソフィー先生、通訳者、木本先生

「タクティールケアとは、ラテン語（Taktilis:触れる）という言葉が語源。筋肉や深い組織を刺激するマッサージとは違い、柔らかく、包み込むように決められた動きで、皮膚を撫でるスウェーデン独特の方法。身体接触によるコミュニケーションを人は母親との接触の中で育まれてきた、接触は大人になっても快い安心を感じさせる。40数年前、未熟児から始まり障害児、がん患者への緩和ケア、認知症患者への実践をへて、看護師によって手技が確立した。現在も看護師によって研究が続けられている」という説明があり、「タクティールケアをすると皮膚の接触受容体を刺激し、脳下垂体からオキシトシンの分泌を促し、体全体に行き渡ることによって鎮静化の作用が起り、安心と信頼の感情が引き起こされる」という。ポイントは10分以上続けることという話があったが、会場では10分が取れない臨床の現状などの質問も出た。ただ、講師からは忙しい日本の現状に驚かれると共に10分でのケアがスムーズに進むなら総体として試みる価値はあるのではないかと話がありました。

実演は、5グループに分かれて行き手や背中中のタクティールケアの見学を行い、グループごと盛んな質疑応答が行われました。また、参加者からは、普段何気なく触れるという行為が学問的な裏づけを持ったケアであり、意識を持って実践していきたいという反応が多くありました。



タクティールケアの実演

イベント報告

訪問看護の紹介をしてきました

PR

昨年同様、7月7日浜松町にて「訪問看護ステーションのお仕事紹介」を行いました。当日は、来春卒業予定の金の卵の看護学生と、引く手数多の再就職希望の看護師が約200名ほど来場しました。慢性的な看護師不足の中、毎年のように看護師争奪戦が繰り広げられている中、私たちも負けじと「魅力ある訪問看護」を少しでも知ってもらおうと頑張りました。

1. パネル展示

そわにえのバックナンバーから、訪問看護ステーションダーツの旅をパネル展示しました。フレッシュな新人の手記も掲載しました（右下参照）。

2. 在宅医療機器の展示

在宅で使用されている医療機器を各メーカーの協力を得て展示しました。非侵襲的陽圧呼吸器、意思伝達装置、腹膜透析、輸液ポンプなどを展示しました

3. 訪問カバンの中身の紹介

実際の現場で使われているカバンの中身を紹介。おなじみの血圧計からマニアク？なカフ圧計まで、意外と知られていないカバンの中身を展示しました。

4. ビデオ上映

訪問看護を紹介するビデオとして、財団作成の“我が家に訪問看護師がやってきた”とフジテレビで放映された“やがて来る日のために”を上映しました。

5. 訪問看護相談コーナー

訪問看護に関する質問に答えました。「勤務時間はどのくらい?」「一人で訪問に行くと不安はないか?」など質問がありました。



東京訪問看護ステーション協議会 森山会長（前列中央）とスタッフ一同

がいました。何でもカフ圧計が意外だったそうで、病棟と変わらないことを感じたそうです。まだまだ、病棟と訪問では同じ看護を行っているにもかかわらず、このような乖離が見受けられます。このイベントで、看護が行われる場が病室か居宅かの違いだけであって、行っているケアには差はないことを知ってもらったことは良かったです。

最後に訪れてくれた求職ナースたちが、「看護の仕事のニーズははかり知れない、私は大切な人材なんだ。頑張って働いてみよう。」と、気づいてくれたなら、まず大成功です。

新人さんからの
メッセージ

蒲田医師会立訪問看護ステーション
上原 智子（訪問看護歴9ヶ月）

「患者さんの話をもっとよく聞きたい」
「希望に添ったターミナルの支援がしたい」
居宅での医療に携わる諸先輩方の熱い志の中、私が訪問看護の道を選んだ動機は恥ずかしながら「たくさん症例が見られて勉強になるな（^-^）」という、なんとも自分本位なものでありました。長い間の専門外来勤務に焦りを感じはじめ、イマドキの言葉で言うならば、“自分探し”的な気持ちで叩いた扉でしたが、足を踏み入れてみた景色は、自分の意識を大きく変えるもうひとつの医療現場でした。
居宅という限られた空間の中での勤務、また利用者さんや介護者の方々の取り組みには十人十色の工夫がなされ、目からウロコの思いでした。それと同時に今の日本での行政や福祉の限界を目の当たりにし、自分の家族や介護のこれらについてなど、深く考えるようになりました。家庭が一番小さな社会と言いますが、利用者さん達の小さな社会を通して、日本の将来のことまで見つめるようになるとは、診察室の中では想像もつかないことでした。訪問看護ってスゴイ！もちろん技術面でもまだまだの私ですが、研修にも積極的に参加させていただき、スキルアップすべく奮闘中です。

イベントを終えて

推進委員、広報委員の9名のメンバーが一丸となって会場設営。今年は「ひまわり、朝顔、風船」など使い、お祭りらしさを出そうと頑張りました。素人にしてはみな、センスがあります。この就職イベントの対象は新卒者です。訪問看護は臨床経験者しか対象にしていなと思われがちですが、3人ほど新卒の人が立ち寄りました。彼女らは「今はまだ無理だと思うけど、将来的には訪問看護も考えている。」と話していました。多くの学生が素通りしていく中、ちょっとうれしかったです。今年から行った訪問カバンの中身の紹介、これがかかなりインパクトがあったようです。来場者の中にはこのカバンの中身を見て、質問するきっかけになったという人



ステーション紹介

だんけ訪問看護ステーション

多 ◎ だんけ訪問看護ステーションの歩み
 摩丘陵の南端に位置する町田市は、豊かな緑と多くの小高い丘が特徴の、41万人都市です。横浜市にも隣接する「町田市成瀬台」に、だんけ訪問看護ステーションが誕生したのは平成10年1月の事。その半年前から、母体である西嶋医院の在宅支援部として数名の看護師が集まり、事業所指定に向けて着々と準備を開始したという歴史があります。来年1月には10周年を迎えますが、これまでに580名の方の利用を頂き（9月14日現在）、地域の方に愛され励まされながらこれまで歩む事が出来ました。

と ◎ 恥ずかしながら
 ところが、そのような実績とは裏腹に、今私達は大きな局面を迎えています。それは、退職が続いた事による大幅な常勤者の減少です。この8月には遂に常勤換算率が2.6人となってしまいました。今回、このページへのお誘いを頂いた時に、あまりにも小さな事業所ではないかと、一度はお断りしようと考えましたが、「ありのままが良いです」とのお言葉に甘え、恥ずかしながら紹介させて頂く事を決めました。

多 ◎ きっといい事あるよ
 くのステーションが、常にスタッフ不足に頭を悩ませていると思いますが、私もここまで人力の重要性を痛感した事はありません。この状況で24時間緊急体制やターミナルケアを維持する事は、本音のところ「やっぱり辛い、…」ですが、私のモットーである「そのうちきっといい事あるよ」を胸に、今は小さいながらも確実に温かな看護を皆様に提供できるようスタッフ一丸となり奮闘しています。今後は、私を含めスタッフ皆がバーンアウトを起こさないよう、幅広く募集活動を続けたいと思います。



昨 ◎ じゃじゃ馬所長としっかり者のスタッフ
 年7月、3代目所長に就任した私は、ステーション1番のじゃじゃ馬です。よく皆様に「江戸っ子でしょ」と言われますが、チャキチャキを通り越し、暴れ馬のような性分だと自己分析しています。差別を嫌い、白黒はっきりさせたが

る行動派でありながら泣き虫という頼りない私が、それでも1年間無事にやって来られたのは、スタッフの見事な手綱さばきのおかげです。私的にも母が食道癌となり、大手術の後も入退院を繰り返し帰省を余儀なくされた時に、「今はお母さんを一番に考えて。私達に出来る事があればいつでも言って下さい」と、涙が流れるほど温かな言葉をもらいました。つくづく、「仲間っていいなー」と感じた時です。

母 ◎ 巡り合い
 の病状は今も良くありませんが、決して強がりではなく、私は「母に寄り添う事が出来ない分、此处で頑張ろう。人の輪は広がるから、巡り巡って母の元にも優しい看護師さんが来てくれるはず」と信じています。縁があって町田に暮らし始め17年になります。これまでに出会えた多くの人達への感謝を込めて、もう少し頑張りたいと思います。



パンフレット



平 ◎ 名前の由来
 仮名で「だんけ」と書きますが、これには、ドイツ語の(ダンケシェーン)と漢字で暖家(温かな家)という2つの意味があります。更にパンフレットは、市内在住の漫画家「みつはしちかこ先生」のイラストを使用させて頂いています。

二 ◎ 吉 報
 の原稿の締め切りが近づいた日に、新聞広告を見たところ2名の方から連絡があり、お会いした結果10月からの入職が決まりました(万歳!)。待てば海路の日和ありですね。皆さんも絶対にあきらめないで下さい。

今回ご協力いただいたステーション

医療法人社団公明会 **だんけ訪問看護ステーション**
 所長 吉浦明恵
 〒194-0043 東京都町田市成瀬台3丁目8-18
 TEL 042-729-1204 e-mail:akie_yoshiura@danke.jp



各委員会からの報告

➤ 1 訪問看護推進委員会

訪問看護推進委員は、7月13日に厚生労働省の関係部署へ医療保険の改正に際し以下のような要望書を提出し、訪問看護の現場の声を訴えて来てくれました。ここ最近、訪問看護ステーションが小規模化しています。平均がなんと常勤加算3.8人なんです（平成11年には5.2人）。実はぎりぎり頑張っているステーションがほとんどだったのです。（>_<）

小規模ステーションでも安定的に事業を継続出来るために… ⇒ 経営基盤の強化

① 24時間連絡体制加算の見直し
報酬を介護保険算定以上に引き上げて下さい!!
（訪問看護制度発足以後一度も見直し、引き上げがされていない）

② 複数回訪問看護体制の強化
同日に2カ所以上のSTの利用（報酬算定）を可能にして下さい!!
同日複数回数（2回目以降）の看護療養費を引き上げて下さい!!（1回目訪問の基本療養費以上の額）

③ 退院当日の訪問看護の算定
退院、退所日に看護療養費が算定出来るようにして下さい!!

④ ターミナルケア療養費の見直し
「死亡前24時間以内に看護を提供」等の算定要件を見直して下さい!!
療養費Ⅰ・Ⅱの区別なく引き上げて下さい!!
医療保険の訪問看護と介護保険の訪問看護の違いなんて利用者は理解出来ないはず。保険が違うと値段が違ったり、保険適応が出来たり出来なかったり。訪問看護

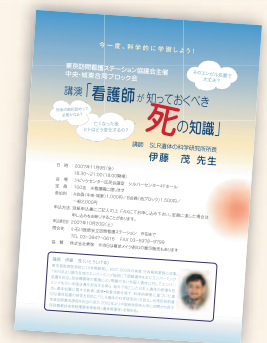
の業務の手引書を読んだりQ&A本を細解いたり、とにかく複雑過ぎます。もっとシンプルに、わかりやすくないものではないでしょうか？請求事務のスタッフも泣いています。



東京都看護協会と当協議会共催の「在宅ターミナルケア研修」5回シリーズも4回まで終わりました。次回の冬号でこの報告をお届けします。

➤ 2 ブロック支援委員会

6月からいよいよ各ブロックでブロック会が開催されはじめました。秋から冬にかけての学習会の計画がめじろ押しです。今年の予定として精神疾患のケースに対する支援方法、保健師や地元の中核病院との連携、エンゼルケアについて、動作の介助の実技研修をシリーズで、呼吸器装着者への援助など盛りだくさんです。自分たちで学びたいテーマ出しあい、企画して開催しそのテーマを学ぶ、それがこの協議会のブロック活動です。ひとつのことを仲間力で力を合わせて成し遂げる。いつの間にか同業者同志のきずなが生まれ、東京都内の訪問看護ST全体のチームワークが生まれる気がします。参加しましょう。



11月9日に行われる中央・城東合同ブロック会の講演会

➤ 3 研修委員会

今年で3回目となる「訪問看護1日体験研修」はますます好評で、今年も実施します。皆さんもステーションも研修生受け入れにご協力ください。宜しくお願いします。

介護保険業務支援システム



「スマイルワン訪問看護システム」

- パソコンに不馴れな方でも、親しみやすい画面構成で簡単操作！
- 入力業務の流れを考えた画面レイアウト。さらに自由にユーザーが編集できる印刷フォームもご用意しております。
- 利用者情報はもちろん、居宅との提供票や計画書データの連携も可能！
- 介護保険業務の全てのソフトを完備し各々が連携できます！
- 入力したデータを隔々までフル活用！豊富な帳票類以外にも事業所独自の書類が作成できます！（※オプション部分もあり）



株式会社プラスワン

■ 東京営業所 〒143-0016 東京都大田区大森北6丁目28-6
TEL: (03) 5753-7171 FAX: (03) 5753-7172

※詳しくは弊社ホームページをご覧ください
【URL】 <http://www.plus1jp.com>

ALSと共に闘う“パイオニア”



神経難病（ALS）の夫と共に闘い、たくましく「生きる」ことを実践しているエネルギッシュで素敵な塚田公子さんにお話をうかがいました。

インタビュー：

杉田美佐子

こもね訪問看護リハビリステーション

サポート：

島田 千穂

社会福祉法人小茂根の郷 教育担当

喜島智香子

ファイザー(株) コミュニティー・リレーション部

Profile

Kimiko Tsukada

1944年生まれの63歳。ご主人はJALSA（日本ALS協会）東京支部長・塚田宏氏。三鷹市在住、職業・キルト作家。



Guest
塚田公子氏

1964年塚田宏氏と結婚。2年後に長男誕生。結婚後18年目（48歳）にご主人がALS発病。発病後1年で人工呼吸器を装着し、13年間病院での生活後、1996年在宅療養生活が始まり、その間夫と共に、「ALS患者の会」や「全国のALS患者を訪問」「人工呼吸器使用の支援制度化」「ALS東京支部」の設立「国際シンポジウム」への参加「医学生・看護学生の教育支援」など積極的に社会に飛び出し、活躍されています。

杉田：訪問看護サービスを利用しているALSの方もいらっしゃるのではお話をお聞かせください。

塚田：彼（塚田宏氏）と共に歩いて25年になります。訪問看護はニヶ所入っています。今来ている方はとてもいいナースで尊敬できる方です。看護学生時代にしっかりとした思いを持った人は根っこがしっかりしていて物事に流されません。

杉田：看護学生がご自宅を見学できるように開放しているんですね。

塚田：はいそうです。私は見学に来る学生には口の悪い「おばさん」でいようと思います。出来の悪い子ほど可愛くて燃えるので……。学生を見ていると生きがいを感じ、育てる喜びを感じます。

あるとき学生が「なぜそんなにパワーがあるんですか」と聞くので、私はこう答えました。「愛して信じているから燃えるんだ」って。今まで介護をいやと思ったことはないんです。

杉田：全国行脚を行ったとホームページにありましたが、それはどのような気持ちで始められたのですか？

塚田：彼は同じ病気の方に「私は人工呼吸器をつけて幸せに暮らしています」と講演を通じて伝えていきます。

杉田：ご主人はどのように講演しているんですか？

塚田：彼は今文字盤でしか話ができませんが、彼のメッセージで「僕は何も話すことが出来ないけれども、妻に僕の思いをインプットしておくから」ということで講演がスタートします。

彼は元々営業マンだったので、その手腕を発揮して人工呼吸器をリースして欲しいと厚生省（当時）に嘆願し16年目にしてリースができるようになりました。そして呼吸器をつけたまま病院から自宅へ退院した第一号です。

杉田：今では想像できませんよね。まさに先駆者ですね。

塚田：私だけで出来たわけではないです。たくさんの人に支えられて私たちは共に生きることが出来るのです。



↑
和やかな雰囲気で行ったインタビュー

←
右から塚田公子さん、喜島智香子さん、（ファイザー株式会社）杉田美佐子（進行係）（こもねリハビリST）

25年間ALSと共に闘ってきて、

“あきらめない、希望を持つ”

と熱く語っていただきました。

【謝辞】ヘルスケア関連団体のネットワーク作りを支援するニュースレター“まねきねこ”をきっかけに今回のインタビューに繋がりました。有難うございました。

ステーションこぼれ話

いろいろなこと、ありますよね

2007年猛暑の8月



今年8月、うちのステーションは開所以来の売り上げを記録しました。例年の130%増しのほぼ100件増です。理由はやはり暑さのための脱水症、熱中症、衰弱による感染症等による体調悪化などで看護の対応が多くなりました。8月だけで新規が5名、死亡が4名、施設に入ったので終了が2名、入院が3名、退院して来たのが3名、特別指示書での対応が5名、患者数の動きは大きくないものの、入れ替わりが激しく、とにかくみんなくたくたでした。

また、新しく非常勤のケアマネが入り、その人とともに事業所移動をされた利用者が11名増え、その契約にも回り、

炎天下汗だくで走り回りました。

加えて、私生活では子供が夏休み中、夏期講習参加のためお弁当作り。お盆の帰省。激疲れなのに夜は熱帯夜で寝苦しく、地獄のようでした。もう、気力だけでみんな頑張り抜きました。今思えば夏は短い、幻のような31日間でした。秋は秋で、暑い夏、病院や施設で療養していた人たちが帰って来てこれまた忙しいですね。

私たちは健康な身体が基本です。美味しい物を食べて毎季節、明るく元気に笑顔で仕事をこなしましょう。管理者の皆さん、みんながバーンアウトしないように、断る勇気も必要です。自分のいろいろな「管理」も無理せずね。

(上野ST天木)

癒しのコスモス鍼灸院



皆さんは肩こり・腰痛でお悩みではありませんか？職業病みたいなものだしなあ…と首をぐりぐり動かしたり、湿布で我慢していることが多いですね。マッサージや整体に行きたくても時間も取れないし、なんとなく我慢できちゃうからいいかとそのままして…。

ちょっと自慢ですが、コスモスには鍼灸師の事務の男性Kさんと国家試験を控えている鍼灸師の卵の看護師Sさんの2人が私たちの身体のメンテナンスにいつも一役かってくれます。本格的な鍼治療やもぐさを使ってのお灸、一時期ブームだった置き針等、治療院さながらの、それも無料の治療が昼休みの更衣室で恒例の風景になっています。治療を受けた看護師は一緒に「軽くなった」「楽になる」と言い、今や順番待ちの状態です。

KさんもSさんも鍼灸の在宅訪問にも非常に熱意があります。癌性疼痛の緩和や筋緊張の緩和など適応疾患はかなりあるようです。しかし、法律上保険診療は認められているもの

の、適用疾患に限られ医師の同意書が必要だったり様々な制約があり難しいようです。

筋肉痛や関節痛の治療イメージがある鍼灸ですが、奥が深く、疾患に対するとらえ方も違う方向からの見解を聞くことが出来たり、なるほどねと感心することも多いです。

近い将来、鍼灸師の方とも訪問の現場で一緒にすることができればと思っています。もう少しずつ訪問も始まっているようですが…。

「養生」という言葉をお二人からはよく聞きます。看護師には難しいことですが、常日頃から自分の体調に気をつけ無理をしないことが大事ですね。元気でなければ笑顔になれませんよね。日頃私が言われていることですが、皆さんもぜひ「養生」してくださいね。

(STコスモス 鶴澤)



左：鍼灸師の小菅さん
右：鍼灸師の卵・越藤さん

ウエットティッシュタイプ拭き取る口腔ケア

口腔ケア ウエット

Oral fresh

オーラル フレッシュ

- お口にやさしい柔らかシート
- お口すっきりミントの香り
- キシリトール(甘味料)・緑茶エキス(湿潤剤)配合

こんな方に

- 水でおせやすい
- “うがい”ができない
- 口臭が気になる
- 口が乾燥しやすい
- 肺炎を繰り返している



まず始めに・・・
ティッシュを指にしっかり巻きつけます。



準備ができたら・・・
歯ぐきと頬の間に指をスッと入れ、慣れてきたら口腔ケアを開始します。



大きく円を描くようにやさしくストレッチ。食べる動作がスムーズに。



上顎・頬の粘膜 頬と歯ぐきの間 舌の上

拭き取るポイント!!
汚れの拭き取りは“奥から手前に拭取る”が基本です。

製品ラインナップ
携帯用(10枚入)
ボトルタイプ(50枚入・100枚入)
詰替用(100枚入)

お問い合わせ先 和光堂株式会社 新規事業推進部
〒101-0048 東京都千代田区神田町2-14-3
フリーダイヤル ☎0120-88-9283 FAX03-5296-8816
●インターネットで和光堂情報を提供しています。http://www.wakodo.co.jp

▶▶ 投稿募集

「そわにえ」は訪問看護師による手作りの会報誌です。日々のお仕事でうれしかったこと、腹が立つこと、みんなこんな時どうしてる？などの疑問や意見、何でも良いですから、お気軽にご投稿ください。また、表紙になる写真やイラストなどもどしどしお寄せください。一般の方からの投稿も歓迎します。次回冬号の発行は1月下旬の予定です。お楽しみに。

広報委員の協力員も探しています。私たちと一緒にそわにえを作りませんか？また、広告主も随時募集中です。ご協力くださる企業の方、ご連絡をお待ちしています。

▶▶ 会員募集

東京訪問看護ステーション協議会は、都内で活動している訪問看護ステーションの訪問看護師たちを支援していきます。ご入会を心よりお待ちしております。

9月30日現在の会員数

継続会員 282st 新規会員 13st 合計 295st

【連絡先】〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町4-17
東京都看護協会内 TEL 03-5229-1534

投稿、広告につきましては、fresca@r3.dion.ne.jp ステーションみけ・椎名までお問い合わせ下さい。

編集後記

秋の気配が漂う今日この頃、訪問看護師としてはとても過ごしやすい季節となりました。今年の夏は酷暑だったので、利用者共々水分補給をしながら乗り切られたのではないのでしょうか？私は、巷で流行りのピリーズブーツキャンプにはまり、ピリー隊長の励ましに支えられながら夏バテしそうな体に鞭打って続けるうちに、暑さに負けない基礎体力とシェイプアップ効果が得られ苦しい夏を乗り切ることが出来ました（意外と効果あります!!!）

さて、今年も昨年同様ナースプラザからの委託で、訪問看護ステーションのお仕事紹介を行い、私もお手伝いに行っていました。来春卒業予定の看護学生は殆ど素通りしておりましたが、いずれ訪問看護をやってみたいという学生や、再就職希望の看護師さん達が訪問看護ブースに立ち寄り下さり、ここから少しでも訪問看護の輪が広がっていただければよいなと思いました。

今後もそわにえを通して多くのナースに訪問看護の良さをアピールしていかなばと思っております。皆様、一緒に訪問看護の輪を広げていきましょう！ご意見、ご投稿お待ちしております。（墨田中央病院訪問看護ステーション 廣瀬祐子）

平成19年度東京訪問看護ステーション協議会
スローガン

「いまこそ、力を合わせて、前進しよう」

その1 STダーツの旅 掲載ステーション募集

毎号載せているダーツの旅ですが、広報委員が無作為に選んでは掲載の依頼をしています。本当はダーツの矢を投げて取材出来れば良いのですが・・・そこで、うちのステーションを宣伝したい！という方、事務局まで投稿用紙でFAXして下さい。自分の愛するステーションを明るく元気に楽しくご紹介して下さい。掲載された「そわにえ」を利用者に配って大変喜ばれたり、連携する医療機関へPRしたり、おまけにちょっとしたうれしい謝礼も出て良いこと尽くめですよ。また、広報委員と一緒に取材に行ってくれる方も募集します。ふるってのご応募を心からお待ちしております。

大募集

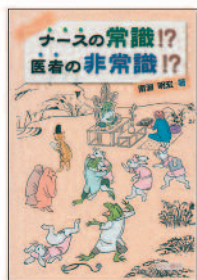
デス

その2 ベテラン看護師さん事務員さん・・・ 座談会参加者大募集

介護保険前から訪問看護に携わっていた「ベテラン看護師」の方。古き良き時代(?)の訪問看護の話で盛り上がりませんか。自薦他薦は問いません。美味しい料理を食べながら、この仕事のすばらしさを熱く語りましょう。5名程度の参加者を募集します。また、ステーションで働く事務員さん、PT、OTの方の座談会も計画中です。ご連絡先と簡単な自己紹介を記載し、投稿用紙でご応募下さい。宜しくお願ひします。



雑誌EB NURSING連載時から大好評!



ナースの常識!? 医者 の非常識!?

著・南淵明宏

四六判/上製/176頁/定価1,575円(本体1,500円+税) ISBN978-4-521-60441-1

中山書店 〒113-8666 東京都文京区白山1-25-14
http://www.nakayamashoten.co.jp/
フリーダイヤルTel.0120-377-883 フリーダイヤルFax.0120-381-306

読んでわかる! 見てわかる! 抜群のコストパフォーマンス



動画でわかる 摂食・嚥下 リハビリテーション

監修・藤島一郎, 柴本 勇
B5変型判/並製/144頁
DVD (約40分の動画収録)
定価3,780円(本体3,600円+税)
ISBN4-521-01801-7



動画でわかる 呼吸 リハビリテーション

編集・高橋仁美, 宮川哲夫, 塩谷隆信
B5変型判/並製/218頁
DVD (約60分の動画収録)
定価2,940円(本体2,800円+税)
ISBN4-521-60361-0



動画でわかる 褥瘡予防のための ポジショニング

編著・田中マキ子
B5変型判/並製/136頁
DVD (約50分の動画収録)
定価3,885円(本体3,700円+税)
ISBN4-521-60401-3